



トルコ ビジネス サポートデスク  
2016年6月

## トルコと日本の貿易・投資促進の為の「ジャパンデー」イベント参加報告

5月31日、イスタンブール産業会議所(通称ISO 加盟企業数約16000社)主催による「ジャパンデー」シンポジウムが市内で開催され、日本への輸出、進出を図りたいトルコ企業を中心に100名程度の参加者が集い、熱心に議論を繰り広げました。

最近映画にもなった日本とトルコの歴史的友情ですが、実際の経済的結びつき、特にトルコから日本への輸出が振るわないのをどうするか、ということからトルコの視点から考える興味深い催しとなりました。

発言者からは大阪府の取り組みも紹介され、当サポートデスクの活用を勧められるなど、私たちにとってもありがたい交流の場となりました。以下、その模様を報告します。

### ●冒頭 ISO 理事 Sadik Ayhan Saruhan 氏から基調報告

G20メンバー国のトルコが世界的プレーヤーを目指して取り組んでいる新空港、大橋、トンネルなどの大型インフラ整備、原子力発電所、航空、宇宙産業育成などで、日本企業がトルコ企業と協力して参画中であることを概観。技術立国として成功した日本にならば、トルコで高まる技術重視の気運で2国間の新たな協力の道が開けると確信。

昨年大阪府のトルコ家電メーカーとのオープン・イノベーション・フォーラムを成功例として紹介。

交渉中の2国間経済連携協定(EPA)が、今後の経済交流活性化へ寄与することを期待。



### ●来賓 日本国在イスタンブール 江原総領事

近年日本とトルコの経済関係が緊密化し、日本企業の進出も多様化、建設、自動車、物流、銀行など大手20社含め220社がトルコで活動中。日本企業の特徴は、高度な技術、細心・慎重なプランニングであり、一方トルコ企業はリスクに対し積極果敢、速決の強み、お互いに補って共同で第3国市場に進出するなど成功例も出てきている。信義を重んじる日本企業との連携をトルコ企業家へ訴え。



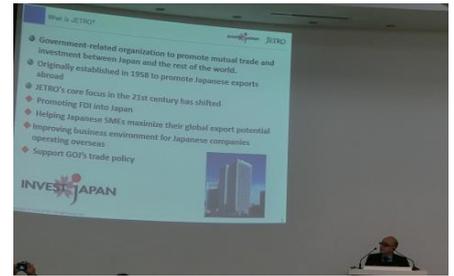
## ●JETRO イスタンブール事務所 石賀副所長

各種データを客観的に示しながら、日本への投資呼びかけ

日本→トルコ 輸出 34.53 億ドル(13年) 直接投資 13.5 億ドル  
(02-13年累計)

トルコ→日本 輸出 4.09 億ドル(13年) 直接投資 ゼロ  
(02-13年累計)

アベノミクスの取り組みで、海外からの投資に魅力的な国となった日本を紹介。法人税の軽減・各種インセンティブ、研究開発への公的助成はGDP比率で世界一。



## ●トルコ共和国 在東京大使館 商務部 Musa Demir チーフアドバイザー

トルコの対日輸出が 3.4 億ドルにとどまる現状と、70 億ドルまで増える潜在力を指摘。大使館での活動経験を踏まえながら課題と解決を提起。

日本の民間調査会社による日本人の意識調査の紹介、“国としてのトルコには好印象だが、製品への印象は乏しく、買わない。中国等と同等だろうという低価格品のイメージにとどまる”

日本企業をトルコへ招待してのプロモーション活動により、参加日本企業のトルコ製品へのイメージは好転する。ただし日本市場へ売り込んでも知名度が上がらず、具体的結果に結びつかない。

トルコ業者の日本市場への熱意が低く、細かい市場対応に消極的。

解決策としては、

- ・トルコの優秀な企業に先陣を切って日本市場開拓を担ってもらい、政府、産業界の支援も必要。
- ・即決しない日本企業と付き合うのは、忍耐が必要だが、長く付き合い合えばお互い類似点もあると気づくはず。



## ●パネル ディスカッション

日本とビジネス経験のあるトルコ企業 水産、家具、法律事務所の立場から経験を参加者と共有、後に続くよう呼びかけが行われました。ここでも、大阪府の海外からの進出希望企業へのサポートが紹介されました。

参加企業は、オリーブオイル、ナッツなど農産品、靴 雑貨類、タオル等繊維類、ソフトウェアなど多岐にわたり、来場者とパネラーの熱心なやり取りも繰り広げられました。



以上